寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の"いま"を伝える情報誌

vol.28

巻頭インタビュー

神田神社宮司
清水祥彦

「伝統×革新」を掲げて時代の息吹を取り込み、
新しいものを創造する場でありたい

特集 1

法話からエンタメまで多様な情報を発信！

理解を拡げ、つながりを創るYouTube

特集 2

お酒の力か？ 雰囲気か？

"坊主BAR"が全国的に人気の理由

寺社Now

寺社の“いま”を伝える情報誌

Vol.28

02 巻頭インタビュー

神田神社宮司

清水祥彦

「伝統×革新」を掲げて時代の息吹を取り込み、新しいものを創造する場でありたい

08 新風

NEWS 1／世界文化遺産「日光の社寺」を巡るシェアサイクル運用開始

NEWS 2／境内にキャンピングカー車中泊を受け入れ、禅体験を提供

09 動静

NEWS 1／G20観光大臣会合(北海道)でSDGsが議題に

NEWS 2／法隆寺(奈良県)門前に参道活性をめざす宿が誕生

10 未来考創

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
福嶌教輝(東京2020国際関係担当大使)
「オリンピックと社寺観光」

特集1

法話からエンタメまで、多彩な情報を配信！

理解を拡げ、つながりを創るYouTube

12 法話

・浄土真宗本願寺派法城寺(北海道) 布教師 桜庭尚吾

・真言宗須磨寺派大本山須磨寺(兵庫県) 副住職 小池陽人

14 エンターテインメント

・臨済宗妙心寺派日照山海禅寺(愛媛県) 副住職 薬師寺寛邦

・法然上人伊賀霊場会(三重県)

16 アラカルト

・宮崎神社(広島県) 宮司 井口貞春

・真言宗九重山金剛宝寺(大分県) 住職 井上仁勝

伝統を未来へ～From the Past to the Future～

18 コワーキングへの協力で寺を「活用される場」へ
曹洞宗長松山西源寺住職 若月和道(山梨県)

19 イベントで参道を活用し、神社の存在を発信する
諭鶴羽神社宮司 奥本憲治(兵庫県)

20 特集2

お酒の力か？ 雰囲気か？

〝坊主BAR〟が全国的に人気の理由

坊主バー(東京都)／お坊さんスナック(長崎県)／僧侶バー(岩手県)

24 [新連載]参道をゆく

「永平寺門前の再構築プロジェクト」で往時の姿に新たな魅力を加える
曹洞宗大本山永平寺×福井県×永平寺町(福井県)

26 テラハクレポート／臨済宗妙心寺派 定光山大泰寺(和歌山県)

土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャーメゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社 西日本特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F

特建くん ©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。

0120 FreeDial 0120-131-470

西日本特建支店 検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。

積水ハウスの賃貸住宅
「シャーメゾン」総合カタログ

積水ハウス西日本特建支店 実例集
「Best Solutions」

巻頭インタビュー

神田神社 宮司

清水祥彦

しみず よしひこ

■江戸総鎮守として徳川幕府や庶民の崇敬を集め、首都東京の中枢を守護してきた神田神社(神田明神)。江戸時代に「天下祭」と謳われた5月の神田祭は、今も東京の初夏の風物詩であり、期間中は絢爛豪華な祭礼絵巻が繰り広げられる。

近年はサブカルチャーとの連携を深め、人気アニメとのコラボで話題を呼んだ。昨年12月には境内に『神田明神文化交流館EDOCCO』を開業。都市型MICE(註1)の誘致を目的とした「DMO東京丸の内」にも参加し、日本文化の発信拠点としての体制を整えつつある。

東京が国際都市へと変貌する中、神田神社は「伝統×革新」を掲げ、神社界をいかにリードしていくのか。今年5月に就任した清水祥彦宮司に話を伺った。

構成・文／吉田燿子

(註1) MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event) の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。その中で都市にしかないリソースを活用し、都市にしかできないビジネスイベントを行うことを都市型と呼ぶ。DMO東京丸の内は、都心にしかできない着地型観光や旅、MICEをエリア全体で行おうとする、日本初の取り組み

神社界に先駆けて数々の新機軸を打ち出す

神田神社は、神田・日本橋・秋葉原・大手町・丸の内など、108か町の氏神様として崇敬を集めています。まさに首都東京の中枢を守護しておられるわけですね。

神田神社は創建から1300年の歴史を持つ、都内最古の神社のひとつです。江戸時代には徳川幕府から格別の庇護を受け、江戸総鎮守としての役割を果たしてまいりました。ところが、明治維新で幕府という庇護者を失い、また朝敵とされた平将門公をお祀りしていることから、神社界での地位は大きく後退しました。以後、神田神社は庶民の信仰によって支えられることとなったのです。

こうなると、古くからの伝統を守り伝えるだけでは、新しい時代を生き抜くことは難しい。だからこそ私どもは、常に進取の気性を持って、新しい分野を開拓してきました。

そのひとつが「神前結婚式」です。婚礼は各家の座敷で行うのが古来の伝統でしたが、大正天皇(当時皇太子)ご婚儀の折、宮中賢所大前(かしこどころおおまえ)で結婚式が執り行われました。これを機に、神前結婚式は新しい婚礼スタイルとして定着していきます。神田神社では昭和26年に旧・明神会館を造営し、戦後いち早く総合結婚式場を立ち上げることとなったのです。

もうひとつは「企業参拝」です。戦後、神田神社は、神田祭の担い手である氏子さんに支えられてきました。

仕事前に日参するサラリーマンの姿が朝から見られる神田神社。境内の結婚式場「明神会館」では、年間約300組が神前結婚式を挙げる。令和2(2020年)1月にリニューアルオープン予定

「伝統×革新」を掲げて時代の息吹を取り込み、新しいものを創造する場でありたい

清水祥彦

昭和35年東京都生まれ。昭和58年國學院大学文学部神道学科卒業後、鶴岡八幡宮(鎌倉市)に奉職。昭和62年神田神社(神田明神)に奉職し、令和元年5月1日より現職。平成28年より東京都神社庁・副庁長

浮世絵やアニメなどサブカルチャーを育む神田明神のDNA

アニメとのコラボで若い世代を呼び込む

――神田神社といえば、アニメ『ラブライブ！』や『こち亀（こちら葛飾区亀有公園前派出所）』をデザインした絵馬やお守りが有名です。アニメとのコラボを始めたきっかけについて教えてください。

『こち亀』というマンガに神田神社がしばしば登場していることは、以前から存じておりました。たまたま作者や制作会社の方とお話しする機会があり、「ぜひ一緒に何かやりましょう」ということになったわけです。

元々、神田神社はサブカルチャーとは縁が深い神社です。例えば当社は、1000枚を超える浮世絵を所蔵しています。今でこそ日本を代表するところが高度成長期に地価が高騰してドーナツ化現象が進み、氏子さんが郊外に移転してしまったのです。

その空白を埋めるべく、私どもが新たに起こしたのが、当時まだほとんど行われていなかった正月仕事始めの「企業参拝」でした。そして、氏子区域のビジネス街に社屋を構える企業の、商売繁盛祈願や安全祈願を執り行うようになります。神田神社は神社界に先駆けて、企業参拝という新しい文化を作り上げたのです。

このように神田神社は、新しい時代の気風を積極的に取り入れながら、さまざまな挑戦を続けてきました。神社は日本最古の信仰・文化であると同時に、時代とともに柔軟に変化してきたことを、ぜひ多くの方に知っていただきたいと思います。

人気アニメとのコラボから生まれた絵馬やお守りの数々。IT情報安全守護のお守りもある

江戸時代には「天下祭」と呼ばれた、神田神社の祭礼・神田祭。日枝神社の山王祭と交代で隔年の5月中旬に行われ、神幸祭では華麗な神輿や鳳輦が氏子108町会を練り歩く。京都の祇園祭、大阪の天神祭と並び、「日本三大祭」のひとつに数えられる

する芸術となった浮世絵ですが、明治維新の頃は、二束三文で外国に売られていたほど評価が低かった。狩野派や住吉派のような御用絵師と違い、浮世絵師は〝町絵師〟として低く見られていたのです。しかし今では、広重や北斎は世界的に高い評価を得ています。江戸のサブカルチャーを担った浮世絵師は、権威ある御用絵師以上に、大きな可能性を秘めていたわけです。それと同じように、100年後にはアニメのクリエイターが、世界的なアーティストとして花開いているかもしれない。もし神社とアニメがコラボレーションすれば、若い方々に神社のことを知っていただけるのではないか。神田神社は庶民の神社ですから、サブカルチャーなどの多様な文化に門戸を広げていきたいと考えたのです。

――斬新な試みですが、神社界や氏子さんの反響はいかがでしたか。

神社界は保守的ですから、あまり時代の先端を行きすぎると、どうしても違和感を持って見られがちです。ただ、それ以上に違和感をお持ちだったのが、氏子の長老たちでした。神田祭では現在、女神輿が人気です。しかし50年前までは、女性がお神輿に触ることなど許されなかった。そのようなわけで、アニメとのコラボについても、最初の頃は非常に大きな抵抗感がありました。

しかし、神田神社は時代とともに変化してきたし、これからも変化しなければいけない。先代の大鳥居宮司をはじめ、私どもは氏子さんに根気よく理解を求めました。その甲斐あって、神田神社が進取の気性を常に保ってきた神社だということが、氏子の方々にもようやく理解されてきたように思います。

文化交流館を開業し日本文化を発信

――昨年末、奉祝1300年記念事業として、境内に「神田明神文化交流館EDOCCO」を開業されました。その狙いをお聞かせください。

今、明治神宮の参拝者の7割以上が外国人だそうです。秋葉原に近い神田神社でもインバウンドの方々が増え、参拝者の半分近くが外国人という日も珍しくありません。当社では結婚式を中心に事業を行ってきましたが、少子高齢化・晩婚化・地味婚化により、結婚式の数は縮小傾向です。ですから21世紀の神社

神社とは、人々が生きる喜びを謳歌し、人間性を育む場

日本の縁日文化を世界に発信するため、DMO 東京丸の内と連携して行われている「江戸東京夜市」。食、縁日、音楽などさまざまなジャンルで、屋台出店やイベントが行われる。令和元(2019)年8月より毎月開催

石造りでは日本一の大きさと謳われる大国主命の前で祭典が始まると、観光客が集まる。大都会の中心で日常的に神社の伝統行事に触れることができ、日本文化の発信にもつながる

は、インバウンド対応も含めて現代文化をしっかりと受け止め、交流と創造を続けていかねばなりません。

神社は神霊が鎮まる場所であると同時に、多様な方々を受け入れ、新しいものを生み出していく場所でもある。神道自体がキリスト教やイスラム教のような一神教とは異なり、多様性を許容する文化を持っています。また日本人は、キリスト教由来のクリスマスも祝えば、お彼岸には墓参りをし、年の暮れには除夜の鐘もつく。そんな多様性の受け皿として、新しい文化を発信していくことができれば――。EDOCCOを造らせていただいたのは、そんな思いからでした。ここでは週末、アニソンを歌うイベントやライブ、メイドカフェなど、若者向けの催しも行われています。また、巫女による神社ガイドツアーやショーなど、インバウンドの方を対象としたさまざまな企画も行っています。

EDOCCO開業により、神社の本殿や明神会館と三位一体で、境内を有効活用できる体制がようやく整いました。EDOCCOのコンセプトとして「伝統×革新」を掲げたのは、神社としての伝統文化を継承しつつ、新しい息吹を吹き込むことによって、常に新しいものを創造する場でありたいと考えたからです。

東京が国際都市として羽ばたく一助を担いたい

――都心型MICEの誘致を目的として発足した「DMO東京丸の内」に、昨年、宗教法人として初めて参加されました。

神田神社の氏子区域である大手町や丸の内には、日本を代表する企業やラグジュアリーホテル、飲食店がひしめいています。しかしこのエリアには、皇居以外に日本文化が感じられるような場所が少ない。そこで、私どもの方からお声掛けさせていただいたのですが、積極的な姿勢をご理解いただき、DMO(註2)に加えていただくことになりました。

私どもがDMOに参加させていただいたのは、唯一の宗教法人として日本文化を発信すると同時に、神社が多様性を受け入れる土壌を持っていることを、外国の方にぜひ知っていただきたいと思ったからです。神田神社に来ていただき、日本文化の大らかな多様性とバランス感覚に触れ、新しいものを創造するためのヒントを見出していただきたい。今後の具体的な計画についてはまだ見えていないところもありますが、DMOの皆さんと相互に補完する形で連携していきたいと感じています。

今後、東京が世界のコンベンションセンターとして羽ばたくためには、香港やソウル、上海、シンガポールなど、アジア諸都市との差別化を図る必要があります。その一助として、私どもも何らかの役割を担うことができればと考えています。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは海外からの賓客を迎えるため、さまざまなコンベンションやイベントが予定されています。私どももユニークベニュー(註3)として、少しでも多くの有意義な企画を受け入れるため、水面下で調整を進めているところです。

――グローバル化と人口減少が進むなか、社寺観光はどのような意義を持つと思われますか。

日本創成会議による消滅可能性都市の平成26年度推計から、「25年後には神社の40%がなくなる」との説も出ています。今後、少子化と過疎化で日本の人口が半減すれば、村落自体が消滅し、人々が心の拠り所としていた社寺は朽ち果てていかざるをえない。そうならないためにも、社寺の価値を見直し、いかに再生を図っていくかということは、日本人の生き方やアイデンティティに関わる大きな課題だと思います。

その先駆けとして、神田神社ではさまざまなことに挑戦してきました。故人の魂を鎮め、供養するのが寺院だとすれば、神社とは今を生きる人々が、祭りを通して生きる喜びを謳歌する場であり、多くの人と交流しながら人間性を育む場でもある。その仕組みを伝統的に守り伝えてきたのが、神社だと思うのです。

神社が生きる喜びを実感できる場になれば、この40%という数字を覆すことはできるかもしれない。社寺の価値を高め、後世につなげていく意味でも、社寺観光は大きな可能性を秘めていると思うのです。

平成 30 (2018)年12月に開業した神田明神文化交流館『EDOCCO』。多摩産材を使用して神社の小屋組をイメージした 1 階には神札授与所やショップ、カフェがある

2･3 階の神田明神ホール。地下 1 階の EDOCCO STUDIO では着付けや和楽器演奏、書道・茶道、盆栽など日本文化が体験できる

神田神社

〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-16-2
TEL：03-3254-0753
https://www.kandamyoujin.or.jp

(註2) 名所、自然、食、芸術、芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。Destination Management Organization(デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション) の略

(註3) 会議やレセプション会場として使用することで、特別感を演出できる施設。歴史的建造物や博物館・美術館、神社仏閣などが利用されることが多い。

寺社振興や地域活性に関わる各地の話題を紹介します。今回はオーバーツーリズム対策にもなるシェアサイクル事業と、車中泊者を対象にした禅体験です。

NEWS 1

観光スポット密集地の渋滞緩和と地域振興が目的

世界文化遺産「日光の社寺」を巡る「日光シェアサイクル」がスタート

■日光東照宮などユネスコ世界文化遺産「日光の社寺」がある栃木県日光市。社寺が集まる地域と最寄りの東武日光駅とは一本の国道で結ばれているが、近年、国内外からの観光客増加による車と人の渋滞が問題となっていた。また、一本道で往復できることで観光客が地域を巡ることなく帰っていくことも、観光面で課題となっていた。

そこで日光商工会議所と日光商店連合会が中心となり、昨年から電動アシスト自転車のレンタル事業の実証実験を開始。その結果一定の需要が見込めたことから、「日光シェアサイクル」として本格運用を今年10月にスタートさせた。当初は東武日光駅など10か所にステーションを設け、計40台の電動アシスト自転車を配置。借りた自転車はどのステーションでも返却できる仕組みで、慢性的な渋滞の緩和と観光客の回遊性向上と滞留時間増を狙う。もちろん、地域住民も利用可能。商工会議所の担当者が「日光のいろいろな場所を巡ってもらうことが地域の活性化につながれば」という本事業により、寺社を中心とした面展開による地域振興に期待が高まっている。

10月14日に事業開始。シェアサイクルの運用は首都圏を中心に実績のあるシナネンモビリティ社が行う

■日本は今、空前のアウトドアブームとなっている。なかでもキャンピングカーや大型バンで車中泊を楽しむ人が増えてきた。一方寺社では今、新たに宿坊を開設する動きが活発化している。しかし宿泊施設の開設には手間とコストがかかるため、あきらめるケースも少なくない。

福岡県で人気の観光地・糸島にある曹洞宗佛國山大法寺もそのひとつだが、今回、境内で車中泊を受け入れ、禅体験をしてもらう試みを実施した。車中泊であれば宿泊準備などの手間もかからず、また、食事や風呂は地域を利用してもらうため、地元との交流も生み出せる。加えて、宿泊することで早朝に実施しているお勤めなどを体験してもらえるため、禅の文化を深く理解してもらえることにもつながる。

今回車中泊を利用したのは4人。到着後に大法寺周辺で食事と入浴を済ませ、夜坐を体験してキャンピングカーで就寝。翌朝は坐禅と朝のお勤めを体験し、朝食後には写経にも挑戦。受け入れを担当した同寺の東田耕紀副住職によると、「受け入れの負担はなくお寺のことを知ってもらえる良さがあります。利用者も気軽に楽しめていたようでした」とのこと。宿泊施設を持たなくても場所さえあれば宿泊者を受け入れることができる今回の試み、寺社が地域の役に立てる可能性を秘めている。

NEWS 2

キャンピングカーブームに修行体験をプラス

車中泊利用者に禅体験を提供する試み。寺社活用と地域活性の新たな可能性

境内の空いている場所に車を停めてもらい、電源を提供。利用者は寺で過ごす時間を楽しんでくれたそう

【曹洞宗 佛國山大法寺】〒819-1631 福岡県糸島市二丈福井4576　TEL：092-326-5015　https://peraichi.com/landing_pages/view/daihou4

寺社と地域活性に関する行政を中心とした最新の動きをご紹介します。今回はG20観光大臣会合と法隆寺門前の規制緩和第1号ホテルの話題です。

NEWS 1

観光分野の世界的課題を各国首脳が議論

観光分野におけるSDGsがG20観光大臣会合の議題に

■10月25日・26日に北海道ニセコでG20観光大臣会合が開催された。各国の観光担当大臣や観光関連団体の代表、招待国、国際機関が参加し、世界の観光市場や各国の観光政策の動向などを踏まえながら観光分野に存在する世界的な課題について議論。期間中は、国連総会が示した「持続可能な開発における3つの分野や17の開発目標（SDGs）」から、観光産業が担うべき取り組み分野（上図参照）についても話し合われた。SDGsを意識した観光産業の発展は経済成長の原動力となるだけでなく、生活の質の向上や、多様な文化の保護、環境保全などともつながる。そのために観光に何ができるかを話し合う2日間となった。

また各国や国際機関の代表団に向けて、北海道や日本を知ってもらう民間提案のツアーも実施。地元の居酒屋巡りで北海道の食文化を楽しんだほか、25日に実施された一泊ツアーには、神恵内（かもえない）村にある曹洞宗神恵内天龍寺での坐禅体験も盛り込まれていた。

SDGsに関しては、寺社の事例を交え、次号特集で紹介したい。

観光産業が社会全体に果たせる役割は多い

出典：世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）、国連世界観光機関（UNWTO）

NEWS 2

「まちなか観光」実現のための規制緩和第1号ホテル

「門前宿 和空法隆寺」が法隆寺門前に9月8日開業

■奈良県斑鳩町に、全国寺社観光協会が参道活性プロジェクトの一環として監修にあたった「門前宿 和空法隆寺」が9月8日に開業した。

斑鳩町を含め奈良県全体では、年間1000万人にもおよぶ来訪者がいる一方、宿泊施設が少ないためにほとんどが日帰り客となっていることが課題だった。そこで同町では、世界文化遺産の法隆寺周辺に回遊型観光実現のための施設立地を促し、にぎわいのあるまちづくりを進めるため、平成26（2014）年10月に「法隆寺周辺地区特別用途地区内における建築物の制限の緩和に関する条例」を施行。奈良の伝統文化が生きる法隆寺、その門前に規制緩和後初となる「門前宿 和空法隆寺」が誕生したことで、斑鳩地域の観光が滞在回遊型の「まちなか観光」へと変化するきっかけとなることが期待されている。

同ホテルは茶道・華道・書道・香道の和文化体験や奈良の歴史や食文化などを楽しめる文化体験型の宿泊型施設。また、法隆寺の門前にあるため、宿泊することで寺院周辺の空気感や町の息づかいもより強く感じることができる。施設は2階建て全60室で、食事は全日本調理師協会名誉会長でもある神田川俊郎氏が監修し、奈良県産食材を活かした門前懐石料理などを提供する。

オープニングセレモニーには行政関係者も多数参列した

【門前宿 和空法隆寺】〒636-0116 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺1-5-32　TEL：0745-75-7770　https://waqoo-horyuji.com

《日本の明日を寺社と共に。》

未来考創

寺社をテーマにした観光について
未来志向で取り組む人を訪ね、
日本の未来を共に考え、創造します。

第3回

オリンピックと社寺観光

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
福嶌教輝（ふくしまのりてる）（東京2020国際関係担当大使）

福嶌教輝／昭和33年メキシコ生まれ。在イタリア日本国大使館公使、在スペイン日本国大使館公使、在サンパウロ日本国総領事館総領事、在アルゼンチン日本国大使館特命全権大使などを歴任。現外務省特命全権大使（2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当）

東京オリンピック・パラリンピックは日本の伝統や文化を直接世界へ発信するまたとない機会となる。このチャンスを活かしてほしい。

廣瀬　外国人はひとつじゃないというお話がありますが、中南米の方々の日本への関心はどうでしょうか。

福嶌　私は中南米を中心に、ヨーロッパはスペインとイタリアに勤務しました。それらの国々、特に中南米の人々には、日本の十分なイメージが以前はありませんでした。ところがこの20年ほどでガラリと変わりました。例えば20数年前のアルゼンチンでは4軒ほどだった現地の日本料理店が、今では350店近くあります。また、日系の方が中南米には200数十万人いて、以前はお祭りをやっても日系の方々しか参加しませんでした。しかし今は約9割が現地の方、しかも一緒に盆踊りを踊っています。ちなみに訪日客数は中南米でも、例えばアルゼンチンではこの4年で3倍の2・4万人になりました。世界的な訪日客の増加には、インターネットやSNSが大いに影響しています。情報が簡単に手に入るようになり、そこで見た景色を見てみたい、実際にその文化を体験したいと思う人が飛躍的に増えたのです。だからこそ、日本の美しさをどうアピールするのか、文化財を有している方々にぜひ考えていただきたいと思います。訪日外国人は、私たち日本人も知らない日本をSNSで知り、求めてやってきます。アジアの方々が理解している宗教的、文化的な日本とは違う新たな魅力が、各々の文化圏で日々見つけ出されているのです。

廣瀬　大使として来年オリンピックを迎えるなかで、社寺に対する思いを教えてください

福嶌　国際関係担当大使としての私の主な仕事は、国家元首などが開会式や関連行事にスムーズに参加できること、また、外交上の問題なく平和の祭典として大会を終わらせることです。東京五輪・パラリンピックは、スポーツを通して世界中の人と人との交流が生まれ、また、パラリンピックを通じて共生の社会が確実に広まっていく、将来の日本社会そのものを変える歴史的な行事だと考えています。期間中は、あらゆる社会にとってさまざまな起爆的なチャンスとなります。開催期間は45日にもおよび、東京だけでなく関東、東北、北海道などでも開催されます。社寺にとっても、深い哲学や思想ではなくとも、日本の伝統や文化を知りたいと思う人に直接発信し、体験してもらえる期間となるのではないでしょうか。

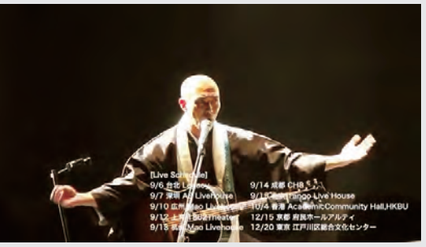
期間中には社寺が開催するイベントなどもあると承知しています。しかし、まだあまり知られていない。発信では各々の文化圏のニーズに合わせた手法も重要です。そこに例えば宿坊という素晴らしい施設を紹介できれば、通り一辺倒な観光ではない日本を知ることができる。訪日外国人たちが自分に合うプログラムや精進料理など、本物の文化伝統に宿坊で触れることができたら、こんなに素晴らしいことはないと思います。

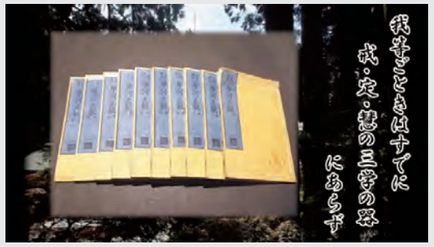
聞き手／廣瀬崇之
一般社団法人全日本社寺観光連盟理事。元内閣府特命担当大臣秘書官、文化観光リサーチ株式会社代表

特集1

法話から
エンタメまで
多様な情報を
発信！

理解を拡げ、つながりを創る YouTube





**子供が将来就きたい職業のひとつにYouTuberが選ばれる時代、
娯楽だけでなく情報収集のメディアとしても認知されてきたYouTubeだが、
最近では寺社に関する動画を目にすることも多くなった。
しかも、ただ美しい風景や歴史などを紹介するものから、
関係者が個人的にさまざまな情報を発信するように内容も多様化してきている。
本特集では専用チャンネルを開設して動画を配信する寺社に話を聞き、
配信に込める思いと、これから情報発信を考えている寺社へのヒントを探る。**

須磨寺 小池陽人の随想録

今を生きていくための教えを、会場の臨場感と共に届ける

動画の制作方法にもこだわる

「人を感動させることのできる映像制作を目指し、残す価値のある動画として法話を一緒に創っていきたい」と、かねてより世話になっていたウェブデザイン会社から打診され、仏の教えをより多くの人に伝えたいという自身の思いとも重なり、動画配信をスタート。10分の動画で仏教の真髄を伝えることはできないが、仏教への入口を拡げるひとつの役割は果たせるのではと考え、須磨寺で行っている法話を配信している。

昨年までは法話を録画し、編集して配信するだけだったが、今年からは法話会を公開収録に変更、拍手や笑い声など、会場の雰囲気も伝わるようにしている。会場にいる人たちと一緒に創りあげることで参拝者との距離が近くなるだけでなく、視聴者との一体感も醸成でき、制作過程も意味あるものとなってきた。動画を視聴したことをきっかけに参拝する人も増えてきたことに、仏縁が広がってきた手応えを感じていると言う。

チャンネル登録者は約8600人。動画は月に2、3本配信している。各動画には視聴者からのコメントも多い

小池陽人副住職は、今年6月には超宗派の僧侶による「H1 法話グランプリ」も主催。法話の大切さを強く感じると共に、今後は寺社が積極的に発信することも必要だと考える

真言宗須磨寺派
大本山須磨寺
〒654-0071
兵庫県神戸市須磨区
須磨寺町4-6-8
TEL：078-731-0416
http://www.sumadera.or.jp

教えをより多くの人に届けるための最適なツールと認識している。

配信を通して両者が感じているのは、視聴者からのコメントが新たな学びのきっかけとなるだけでなく、寄せられるコメントを読むたびに、仏教や寺に興味を持つ人が少しずつ増えているという手応え。そのような人をより増やしていくために大切にしているのは、コンテンツと継続性。桜庭氏は自身の法話だけでなく、布教使の知り合いの法話も紹介し、小池氏はクリエイターと共に、より質の高い動画制作を目指す。

「寺に足を運んで聴くもの」という大前提から、聴きたい時に好きな場所で聴けるものへと、法話の在り方がYouTubeによって変容している。そこには「より多くの人に仏教を届けることができる」「新たなご縁の創出」という、寺で直接語りかけるだけでは得られない大きなメリットがあり、そのメリットを生かしていくために、法話そのもののクオリティを上げていくことも不可欠だと両氏は共に語る。もちろん、コメントや動画ごとの閲覧数をチェックし、ユーザーニーズを掴むことも日々怠らない。

7676amida

学びや体験から生まれた法話と、僧侶の多彩な活動を紹介

自分が学び、得た知識を編集

浄土真宗本願寺派の布教使として各地の寺院が開催する法話会に登壇し、話をしている桜庭氏。その法話を自身の作品と捉え、日記のようにYouTubeへ配信し始めたが、現在は動画を制作する際、素人目線を大切にしている。本願寺はなぜ東西に分かれた、浄土宗と浄土真宗はどう違う、神様と仏様は日本でどんな関係なのか、といった素朴な疑問について「素人の私が、一生懸命学んでみて、わかったことを伝える」というスタイルで法話を構成。宗教観を発信するだけでなく、一般の視聴者が興味を抱きやすい話題にすることで、仏教や寺への関心を喚起している。また、多くの人に知ってほしいと感じるほかの布教使などの法話も積極的に配信している。

今後は法話だけでなく、漫才説教や寺カフェで行われている説教など、多彩なアイデアで教えを説くことに挑戦している僧侶の活動そのものも紹介していこうと考えている。

チャンネル登録者は4800人。動画はほぼ毎週アップしている。自分自身はあまり登場せず、法話の内容に合わせて写真や文字を重ねる構成

法城寺に所属し、浄土真宗の説教法である節談説教の布教使「桜嵐坊」として活動している桜庭尚吾氏。聞きやすい語り口調は、動画になっても内容が頭に入ってきやすい

浄土真宗本願寺派 法城寺
〒054-0021
北海道勇払郡むかわ町
大原2-24
TEL：0145-42-2070
http://houjouji.moo.jp

待っているだけではなく発信してご縁を創る

「仏教の教えは生きていくヒントとなるはず」。浄土真宗本願寺派布教使の桜庭尚吾氏は、それを知ってほしくて法話を配信している。寺離れや宗教離れと言われる現代、来る人を待つのではなくこちらから仏教に関する話題を提供すれば、寺に人が集まるご縁となるのではと考え、「7676amida（ナムナム）」名のチャンネルで、自分自身が感じた宗教に関する素朴な疑問を調べ、動画にまとめている。「私一人がどんなに頑張っても、毎日数千人に長時間話をすることは不可能ですが、YouTubeなら可能になるのです」。

真言宗須磨寺派大本山須磨寺の小池陽人（ようにん）副住職も桜庭氏と同じ思いで、特に若い世代へ向けてメッセージを届けるために法話チャンネル「須磨寺 小池陽人の随想録」をスタート。配信を始めてみると年配者の視聴が意外と多く、「お参りしたような気持ちになれる」と言ってくれる人もいた。また、動画がきっかけで講演依頼が届くこともあり、YouTubeでの動画配信は、仏の

法然上人伊賀霊場チャンネル

楽しんでもらいながら霊場の今を知ってほしい

僧侶だから撮れる撮影アングルにも工夫

法然上人伊賀霊場50か寺を順に紹介していくチャンネル。ホームページで紹介してもあまり見てもらえないが動画にすれば伝わりやすいと考え、1本1本がひとつの番組のように、道中の風景から各寺住職による説明など、霊場の今の姿がよくわかる構成に。動画に登場するのは念佛寺の豊岡副住職、林昌寺静永敬雄住職、中庵寺の西野龍弥住職のトリオ。袈裟姿で車に乗り、各寺を訪ねる。INSTA360という動画によく使われるカメラの使用が個性的な映像を実現しているだけでなく、早送りなどの編集、アーティストの軽快なBGMも採用するなど、こだわりが随所に見られる。なかでも、各寺の仏像を至近距離で撮影しているのは僧侶だからできること。

このように観て楽しめる映像にするために、訪問する寺へ事前に伺い、内容の打ち合わせ、周辺風景の撮影場所確認にも時間を割く。この手間が、完成度の高い動画を制作するためのポイントだ。

動画更新は月に2本を目標にし、2年ですべての霊場寺院を紹介し終える予定。寺の行事の合間を縫って撮影を続ける

右から豊岡浩史副住職、西野龍弥住職、静永敬雄住職。ラフな雰囲気で各寺を訪問していく姿も好感が持てる

法然上人伊賀霊場会
https://iga25reijyou.com

法然上人伊賀霊場会が今年開設した「法然上人伊賀霊場チャンネル」だ。平成23(2011)年の法然上人800年大遠忌から取り組んできた写し霊場復興事業の一環として開設するホームページのコンテンツに、動画の制作を考えた。「霊場を巡る人に役に立つし、動画を見てもらうこと自体が巡拝にもなる。ポップで楽しめる調子がコンセプトです」というのは動画制作メンバーのひとり、浄土宗光明山摂取院念佛寺の豊岡浩史副住職。「それだけでなく、伊賀を離れて暮らす檀家の方達との接点として、現在の郷里を見てもらえる好機にもなると考えています」。観光目線に地方寺院が抱える課題への対応策も重ね、観て楽しめるクオリティに仕上がっている。

薬師寺氏の場合は般若心経そのもの、法然上人伊賀霊場会は、地域の懐かしい風景と霊場巡りの面白さ。どちらもメッセージを明確にすることで、動画として楽しんでもらえているようだ。法然上人伊賀霊場会の場合はさらに、事前の打ち合わせや編集方法の工夫といったこだわり(上記参照)も功を奏している。

薬師寺寛邦 キッサコ

好きな音楽を共有し、仏教とのつながりを生む

僧侶としての役割を音楽に乗せて

般若心経の音楽を創ったのは4年前。ライブのオープニング音楽を一度だけ般若心経のコーラスでやってみよう、と制作した。批判が多いと思っていたところ反応は真逆。周囲の勧めもあり、3年前にYouTubeチャンネルへ公開した。しばらくは再生回数が伸びなかったが、1年ほど前に再生回数が急伸したことをきっかけに、瞬く間に人気が広まった。加えて、自身の音楽を聴いたことで実家の寺へ足を運んでくれる国内外の人が増え、動画のコメントには、「これがきっかけで般若心経を覚えることができた」という声も届いている。

自分自身の歌がお寺や仏教とつながるきっかけになるとわかった今、次なる目標は日本各地のお寺で歌う動画を制作し、配信すること。「日本のお寺の風景」の良さを動画で伝えていきたいと考えている。いつかは地元に根付いた活動もしたい、今はそのためのつながりを創る期間と捉えている。

動画は定期的にアップするのではなく、素材ができたら配信している。3か月前に公開した世尊偈は再生回数が10万回を越えた

自分が好きな音楽を多くの人と共有し、それが視聴者にとって仏教と触れ合う機会につながれば、と薬師寺寛邦副住職。12月には京都と東京でライブを開催

臨済宗妙心寺派 日照山海禅寺
〒794-0053
愛媛県今治市山方町
2丁目甲1167
TEL：0898-22-5957
http://www.kaizenji.info

・薬師寺寛邦オフィシャルサイト
https://kanho.info

まずは楽しんでもらいそこが仏教への入口に

YouTubeで人気を集める動画の多くは、エンターテインメント性の高いもの。その趣向に沿う動画を配信することで、寺社や宗教に触れてもらうきっかけを増やすこともできる。愛媛県今治市の臨済宗妙心寺派日照山海禅寺の薬師寺寛邦副住職は、キッサコ名義で音楽活動も行っている。般若心経に音を合わせた楽曲を自身のYouTubeチャンネル「薬師寺寛邦 キッサコ」にアップしたところ、再生数が約2000万回を記録するほど大ブレーク、プロモーターからの打診でアジアツアーを開催するほどになった。ちなみに薬師寺氏は音楽活動を法衣で行っている。「私は僧侶です。般若心経はつながりのお経だと思っていて、だからこそ僧侶の姿でそれを現在に響く形で発信すれば、私の歌が仏教への入口になると考えました」。エンターテインメントではあるが、そこには視聴者への明確なメッセージを載せている。

ロードムービーを思わせる構成でじわじわファンが増えているのが、

宮崎神社の神主はるちゃんねる

いつかは自分の神社のことを発信できるよう、育てていく

奉職して感じた、神社への不理解を減らしたい

井口宮司は、会社勤めを経て実家が代々宮司を務めていた宮崎神社へ奉職した。宗教者になってあらためて社会を見渡すと、神道についてあまり知られていないことに気づき、知ってもらうために自分ができることを考えた末、動画の配信を決意。神道についての理解が深まれば神社へ親しみを持ってもらえるだろうと考えてのことだった。小さな神社だからこそ自由な配信ができると考えているが、大切にしているのは奉職する神社のことではなく、神道全般の内容を知らせること。細々とやっているためチャンネル登録者数はまだ1000人程度だが、チャンネルを人が集まる場へと地道に育て、その先に想定しているのが、神社や地域の情報発信。

現在は過疎地域となった集落の神社だが、かつては周辺地域から大勢人が集まる秋祭もあった場所。いつかはその賑わいを取り戻し、地域の人の喜ぶ顔が見たいと思っている。

更新は不定期だが、平均すると週に 2、3 本のペース。季節の行事や神社での仕事を動画で紹介し、チャンネル登録者数は約 1000 人になる

前職がエンジニアだったためインターネットには以前から興味があった井口貞春宮司。始めるにあたって他例をかなり研究した

宮崎神社
〒739-2302
広島県東広島市福富町
下竹仁71-1
TEL：082-401-2767
http://miyazakijinja.shakunage.net

遠く離れている人にも思いを届けるツールとして

動画で神社のことを発信しようとする際、ついつい来てもらうことを前提とした内容を考えがち。しかし動画だからこそ、インターネット上での完結と割り切っている例もある。広島県東広島市の山間部にある宮崎神社は、訪れてもらうことがなかなか難しい場所。そこで井口貞春宮司が「宮崎神社の神主はるちゃんねる」で実践しているのは、神道そのものに興味を持ってもらえる内容の発信。「ここは過疎地域ですし参拝者は1日に10人もいないため、人を集めて講話をするにも限界があります。インターネットとリアル、どちらがより多くの人に情報を届けられるかと考え、YouTubeチャンネルを話す場と割り切って、情報を発信することにしました」。

教化活動の一環として神道に関する情報を発信しているが、動画を見て県外から人が訪れるようになったのは嬉しい誤算。氏子からは「神社が賑やかになって、昔みたいだね」と言われるようにもなった。

同じように参拝してもらうことを目的にはせず、「来ることができない人」のためにYouTubeを活用したサービスを運営しているのが、大分と熊本の県境にある真言宗九重山金剛宝寺。当寺は縁結びの寺で知られ、全国から永代供養を受け付けている。そのような活動の中で、子育てや病気入院などの事情でなかなか寺に来ることができない人が増えてきたため、法要や墓参りの代行をYouTubeでライブ配信する「どこでもお墓参(ぼさん)」を始めた。利用者は国内だけでなく、アメリカやスイスなど海外にも広がっている。

「家族が各地に離れていても、時間を合わせれば揃って供養が可能になります。伝統的な供養にデジタル技術が合わされば、より便利にできると思います」と井口仁勝住職。寺との縁が薄くなった若い世代でも、YouTubeを介して親近感を覚えることがあるだろうと考えている。

YouTubeはインターネット上の仮想空間である。しかしここを場と捉えれば、アイデア次第でさまざまな思いを届けることができる。もちろんコストを抑えて制作することも可能だ。大切なのは明確な目的だと、紹介した事例が物語る。

金剛宝寺

デジタル技術で寺院との新たな接点を創る

ここにしかない寺院を目指しサービスを考えていく

墓地利用者に「遠くて墓参りに行けない」と言われ、墓参りに来られない理由を調べていくと、家庭の事情、仕事が忙しくて申し込む時間がない、予算がわかりづらいといった課題の存在が判明。そこで解決策を思案し、インターネットを活用することに。これなら夜間に申し込みができて決済方法が複数選べるだけでなく、どうしても来ることができない、親類が集まれないといった方には、代行してライブ配信という方法もある。そうして始まったのが「どこでもお墓参」。

一般的な墓参り代行は掃除や焼香といった内容が多いが、こちらは住職が墓前で読経、焼香する姿をインターネットでライブ配信する。利用者は事前に寺から開始時間の連絡を受け、親族が離れた場所に暮らしていても、同じ時間にインターネットが見られる環境で指定チャンネルを開けば参加できる。「デジタル技術を活用すれば、利用者の不便を取り除くことはまだまだできる」と井上住職は言う。

法要は個人情報を含んでいるため再生リストには残さない。YouTube チャンネルでは永代供養墓の CM も配信

日本の寺院が抱える問題をひとつずつ解決していきたいと考える井上仁勝住職。寺院では体験修行なども受け入れている

真言宗九重山金剛宝寺
〒879-4912
大分県玖珠郡九重町大字湯坪618-3
TEL：0967-44-0708
https://www.kongouhouji.or.jp

文化や伝統を未来へつなぎ、寺社を活性化させている人や活動。2つの事例を紹介します。

No. I

コーワーキングに活用できる社会課題への協力がお寺が今後活用されるためのひとつの切り口になる

寺院とは地域の場。だから使ってもらいたい

山梨県では今、子育て世代などあらゆる世代の人が働く場として、寺院を活用する例がある。異なる仕事を持つ人が環境を共有し交流するという近年盛んなコワーキングのひとつ「寺co－working」を主催しているのは、在宅ワークを通じて就労困難者の就労支援などを行うリンクウィズアンドカンパニー。県内で16寺院を活用している。6月から始まったこの活動に賛同した若月住職は、自坊を場として提供するだけでなく、運営スタッフとして、開催場所の調整や参加希望寺院への説明などを担当している。

「ほとんどの寺は、法要などがないときは基本的に空いています。それを活用できれば、お母さんたちもひとりで仕事をすることなく、交流できます」。場があれば就労支援だけでなく孤立しなくて済むことにもつながる。「何より、寺に足を運んでもらえるきっかけにもなりますし、人が集まって活気が出るのは寺院にとってもいい話です」。

活動が地元のテレビで紹介され、参加を希望する寺院も増えてきた。それらに対して、若月住職は活動への思いを丁寧に説明していく。「この取り組みは、寺が活用できる場として今後選ばれていくためのきっかけになります。だからこそ活動を拡げて行きたいと思います」。

山間の集落と共に歩んできた西源寺。これからも「地域のえんがわ寺」でありたい、というのが若月住職の願い

寺を「活用される場」にしていく、西源寺の若月和道住職

「社会課題解決への協力は寺院の役目でもある」という若月住職。参加希望の寺へ、コワーキングの意義や必要設備を理解してもらうことにも注力する

子供と一緒に仕事ができることで、お母さん達が安心できるだけでなく、子供の情操教育にもつながっていくのが「寺co-working」のよさ

寺院をコワーキングスペースとして活用することは、そこに生きる伝統や文化に触れてもらえることにもなる。若月住職は、ワーク後に寺院を知ってもらう活動も行う

【 曹洞宗 長松山西源寺 】
〒404-0005　山梨県山梨市牧丘町西保中1780　TEL：0553-35-2131
http://www.saigenji.org
リンクウィズアンドカンパニー：https://linkwithcompany.wixsite.com/mysite

No. 2

歩く人が増えれば神社のことを知ってもらえる。活気を取り戻すために登山イベントなどを主催

人影まばらな神社が全国から人が集まる場所に

兵庫県淡路島の諭鶴羽山中にある諭鶴羽神社は、淡路島くにうみ神話の舞台や元熊野と呼ばれる修験道の聖地として長く信奉されてきた。かつて生活道路でもあった2か所の参道は多くの人が歩き、山全体に活気があった。しかし過疎化が進み参道を利用する人がいなくなり、整備もされなくなり荒れ放題に。

平成11(1999)年に三代目宮司となった奥本さんは、賑わいを取り戻すため参道を諭鶴羽古道と名付け、平成16(2004)年には地域住民による「古道を守る会」を設立、人が歩けるよう整備を始めた。

「年に2、3回みんなで参道の清掃整備活動をしています。歩きやすい道になったことを発信し、少しずつ人が戻ってきました。そこで次のステップに進むことにしました」

平成24(2012)年からは、全国で流行し始めていた山道を走るトレイルランを主催。開催日を神社の祈年祭に合わせたことで参加者が神社に立ち寄り、境内も賑やかになった。また、新嘗祭に合わせた山開き登山会などもスタートさせている。

今では全国から観光バスのツアーが訪れるほど人が戻った。ほかにも、再訪してもらえるようにスタンプカードを作成するなど、神社を賑やかにするためのアイデアを、奥本宮司はまだまだ出していくつもりだ。

参拝および登頂の記念になるようにと登頂証も用意。イベント開催時に参加者に配付している

参詣道を活用し、神社の存在を発信する諭鶴羽（ゆづるは）神社の奥本憲治宮司

境内の清掃、神事を司る奥本宮司。地域住民でつくる「古道を守る会」がイベントの主催者になることで、行政との連携もできるようになったという

恒例の登山イベントはいまや、古道を人が埋め尽くすほどの人気となっている。参加年齢層も幅広い

麓から神社までの早駆けイベントも大賑わい

【 諭鶴羽神社 】
〒656-0551　兵庫県南あわじ市灘黒岩472　TEL：090-3990-5334
https://yuzuruha.jimdo.com

特集2

“坊主BAR”が全国的に人気の理由

雰囲気か？ お酒の力か？

僧侶が法衣姿でカウンターに立ち、接客をする“坊主BAR”が、都市部だけでなく西は長崎県、東は岩手県まで全国的に増え、盛況だ。今回は代名詞的存在の四谷「坊主バー」や地方での事例を通して、人々が集う理由がどこにあるのか、探っていきたい。

長崎県大村市の「僧侶スナック」（22頁）。談笑する人、真剣に相談する人、僧侶との向き合い方はさまざまだ

東京の都心、四谷の路地奥に、訪日外国人も足を運ぶバーがある。ここは本物の僧侶が接客をする「坊主バー」だ。誕生は平成12（2000）年、現在は浄土真宗本願寺派の藤岡善信氏が店を任されている。今でこそフランクに僧侶と話せる場として人気の当店だが、そもそもは、真宗大谷派瑞興寺（大阪市平野区）の清史彦（きよしふみひこ）住職が、毎月開催していた「問答の会」をきっかけに、お寺の敷居を下げたいと平成4（1992）年に大阪で店舗を借りて立ち上げた坊主バーが前身。東京に支店を出した半年後、知人を介して藤岡氏に声がかかり、店に入った。当初は客足が少なく、運営に不安を覚える日々。しかし次第に人が集まるようになり、近年は読経を楽しみに来る人など、多くの人が訪れるようになった。

僧侶がいて話をする。酒は必須アイテムではない

「伽藍こそありませんが、私たち僧侶がいることでここでは教えを伝えることができます。お店に来て説法を聞き、仏教を知るという行為はお寺に行くことと何ら変わりはありません」という藤岡氏。目指してきたのは夜のお寺であり、実はお酒が駄目だとは思っていない。店に入り20年、客の声を聞きながら「お寺は、開放されている時間に限りがありすぎると思います。昼しか開いていないところがほとんどですが、実はこれからを生きていく、昼間に一生懸命働いている人たちこそ仏教という拠り所を一番必要としているし、仏教の教えを届けたい」と実感している。昼間しか開いていないのでは、働いている人たちは寺へ行くことができない。そうした人たちが集えるよう、アフター5に仏教と出合える場として、今後も機能していく。

四谷「坊主バー」の店内。奥には仏壇があり、拝む人もいる。仏教に関する詩やお経を現代風にアレンジしたライブも不定期で開催

四谷「坊主バー」の住職を務める藤岡氏。坊主バンドのリーダーというもうひとつの顔も持つ

求められることを酌み取り、生かしていく

「通常のバーはお酒を楽しむ所ですが、ここに来る人はみんな居場所を求めている気がします。だからこそ私たちは、常に歓迎し、向き合う姿勢を見せていきたいと考えています」と藤岡氏。都会だけでなく全国的に核家族化が進み、寺から遠ざかる人が増えている。それでも仏教に触れたいと思う人はいるが、彼らが仏教との縁を求めても、どこに行けばいいのか分からない。その不安を解消するためにも、ウェルカムな雰囲気が伝わるようにしたいと言う。また、法事に行く時間がない、ちょっと億劫に感じている人に向けて、店でカジュアルな法事をやっていく構想も持っている。「生前から仏教とのご縁をつないでもらいたい。お客さんの声をヒントに、求められていることを形にしていくのです」。坊主バーとは藤岡氏の言葉を借りれば、僧侶が人の話を聴く「聞法の場」。ただし、一方通行にならないよう、酒を挟んで会話する。多様なつながりが必要とされるこれからの時代、坊主バーのような「お寺でも神社でもない、しかし宗教者とつながれる場」の需要は増していくと藤岡氏は語った。

この坊主バーでは、宗派を超えて「自分もやってみたい」という僧侶、仏教学部の学生、仏教徒の留学生が店に立ち、学んでいく。また、教えを伝えることを店で経験したうえで、別の場所でバーをオープンさせたキリスト教の牧師もいる。「彼らにとってここは、宗教の世界を知る最初の入口でもあり、人の声に向き合うための有益な経験ができる場所になると思います」。一般の人が仏教と合う場であると共に、宗教者にとっても、人々のニーズとの向き合い方を学ぶ場になっているようだ。

店ではおつまみに精進料理を用意（写真左）。藤岡氏は精進料理店が実家。ドリンクメニューには「極楽浄土」「灼熱地獄」という名のカクテルも用意（右）

酒の力を借りた場が全国に派生している

清氏が立ち上げた坊主バーの仲間は現在、四谷のほかに東京の中野と京都にある。また、名前は違うが似た形態でたくさんの人々と向き合える場が、全国に誕生している。それらは坊主バーを模倣しているのではなく、独自に生まれたものだ。そこにどのような思いがあり、どんな人が集まるのか。次は各地の事例の中から、不定期開催の2例を見ていきたい。

バーでいうところのチャージは参拝料。一般的な寺のようにおみくじや写経・写仏、御朱印も用意している

【坊主バー】
〒160-0007 東京都新宿区荒木町6 AGビル2F　TEL：03-3353-1032　http://vowz-bar.com

特集2

〝坊主BAR〟が全国的に人気の理由

「お坊さん」と「スナック」という、相反するイメージのワードに惹かれて訪れる人もいる

カウンタを挟んで店の人と客がざっくばらんに話す。そのシーンはバーやスナックそのもの

発案者の吉田氏はカレー坊主としても知られる。大村市で始めたカレーイベントも、いまや全国に有志が増えた

長崎県大村市の繁華街の一角には、平日の夜に突然「お坊さんスナック、本日やってます」という看板が出る。場を運営しているのは、浄土宗白龍山長安寺の吉田武士氏と、趣旨に賛同した超宗派の僧侶たちだ。吉田氏がSNSに「坊主スナックをやりたい」と投稿したところ、その声に仲間の僧侶が反応し、バーのオーナーが場所を提供してくれたことで、実施の運びとなった。

人々が心を開く場は僧侶の学びにもなる

「お酒を楽しむだけでなく、おしゃべりしながら愚痴や悩みを吐き出していく。そんな場所をイメージした時にスナックが思い浮かびました」という吉田氏。「お坊さんスナック」をやりたいと考えたのは、寺とあまり縁のない人達が僧侶や仏教に触れる機会を創りたいというのが大きな理由だが、現代の僧侶には聴く力が求められているにもかかわらず場が少なく、聴く訓練もできていないことへの問題意識もあった。そこで、仲間の僧侶が法要など寺の行事の影響を受けず、場を提供してくれる店にも迷惑をかけないように不定期で「お坊さんスナック」を開催することに。カウンターに仏像を置き、「極楽浄土」「血の池地獄」などその日だけのドリンクメニューも用意。

スタート当初は僧侶に興味があるものの仏教への興味は薄いように感じていた客も、回を重ねるにつれて仏教に興味を示すようになった。また、仏教の話を聴いてもらうにはまず客の話をこちらが聴いてから、という気付きもあった。「寺の外での悩み相談を通じて、地域の人たちとの新たな関係性を築ける可能性が〝お坊さんスナック〟にはあります」と、場の目的は果たせているよう。共に運営する僧侶の間では、時間を気にせずじっくり話せただけでなく、僧侶同士の情報交換にもなったと、こちらも感触はいい。吉田氏は「このような場の存在が、今後の寺の在り方を考えるきっかけにもなる」とも考えている。

僧侶との会話を楽しむ。それだけで距離は近づく

「お坊さんスナック」同様不定期開催だが、岩手県盛岡市にある曹洞宗稲荷山喜雲寺の佐々木秀吾副住職が中心となって開催している「僧侶バー」は、場所も毎回異なっている。会場によって実施内容は異なるが、基本的には僧侶といろんな話をする、というシンプルなテーマで運営している。バーが会場となればバーテンダーに酒を提供してもらい、イベントスペースが会場となれば、ジュースやアルコールを持ち込み、楽しんでもらうスタイル。会のコンセプトは僧侶を身近に感じてもらうこと、仏教をもっと生活に生かしてもらうことの2点。

「一般の人にとって、お坊さんと話す機会は葬儀や年回忌法要の際などしかないという人も少なくありません。しかし葬儀や法要の場面では、故人を偲ぶ話や悩み相談はできても、楽しい話は難しいものです。バーだからこそ、リラックスした環境の中で楽しんでもらえるのではないでしょうか」と佐々木副住職。参加者の半数近くは興味本位だが、中には墓や葬儀のこと、人間関係などさまざまな相談を持ちかけてくる人もいる。悩み事がその場の会話ですぐ解決することは少ないかもしれないが、悩みを共有したり、僧侶に相談することで少しでも解決の方向に向かえば…。参加者にとってのメリットをそう語る佐々木副住職だが、「同世代の話を聴いたり、現役社会人の考え方に触れる機会にもなるので、主催者の僧侶側にも大きなメリットがあると思います」。会話を楽しむというコンセプトさえ反映できていれば、時間帯や場所、内容などが自由に展開できるのが「僧侶バー」のよさ。時には外部からゲストを呼び、気軽に参加してもらうことで僧侶や仏教との距離を縮めてほしいと考えている。

僧侶は多彩、宗教も多様と知ってもらうことから始める

「まずは僧侶にはいろんな人がいると知ってもらうことから始めなければと思っています」という佐々木副住職。今回はその機会のひとつとして「バー」という形態を取り上げたが、宗教と人々との関係が大きく変化している現代では、ほかにもさまざまな宗教との出合いの場が全国的に生まれている。取材を通して見えてきたのは、一般の人が入りやすい場を設けるだけでなく、「参加者のニーズを学ぶ姿勢」を持つこと。そこが新たなアイデアの出発点となるだろう。

距離を縮める場を設け宗教者へのニーズを学ぶ。それが「場」が持つ可能性

僧侶と楽しくお酒を飲む。このシンプルなテーマから、「僧侶バー」には若い参加者が多い

「社会系お坊さんプロジェクト TIME AND TIDE」を主宰し、僧侶バーのほか、朝座禅会、YouTube番組の配信などさまざまな活動をする佐々木副住職

平成30（2018）年11月に開催した会では、ゲストにキリスト教の牧師が登場。自由な発想で参加者に楽しんでもらえる場となっている

【浄土宗白龍山長安寺】
〒856-0035　長崎県大村市武部町448　TEL：0957-52-3414

【曹洞宗 稲荷山喜雲寺】
〒028-4134　岩手県盛岡市下田字生出袋54　TEL：019-683-1889　https://kiunji.net

参道活性化に動く
全国の事例を紹介

参道をゆく

曹洞宗大本山永平寺×福井県×永平寺町の共同事業

「永平寺門前の再構築プロジェクト」で往時の姿に新たな魅力を加え、門前に活気を

今回整備された旧参道は永平寺門前まで続く。右に見えるのが「永平寺 親禅の宿 柏樹關」

永平寺を大切な場所として三者が活性化に動いた

令和元年7月26日、曹洞宗大本山永平寺門前に「永平寺 親禅の宿 柏樹關」が誕生した。これはただ宿泊施設が永平寺門前に増えた、ということではなく、永平寺、福井県、永平寺町という、寺院と行政が垣根を越え、門前再活性のために協働した事業としてのオープンだった。

平成22年に春の嵐ともいうべき強風で、永平寺山門前の五大杉が倒れた。それをきっかけに永平寺では、安心安全を求め、そのために何をすべきかを考える「禅の里事業」が始動。禅の里のまちづくりについて門前との協議も始まった。

一方行政側では、舞鶴若狭自動車道が平成26(2014)年に全線開通し、翌年には北陸新幹線の開業、中部縦貫自動車道の延伸など、交通網の整備が大幅に進展。また、平成30(2018)年に福井しあわせ元気国体が開催されたことを皮切りに、その後も令和2(2020)年の東京オリンピック・パラリンピック、令和7(2025)年には大阪万博の開催が控えており、この数年は国内外から誘客できる絶好の機会だと考えていた。このような事情のなか、福井県が永平寺に声をかけ、永平寺町も加えた三者による「永平寺門前の再構築プロジェクト」が発足。その第一弾が今回のオープンとなる。永平寺が宿泊施設を建設し、1600年代の古地図に基づき、福井県は門前を流れる永平寺川の河川改修工事を、永平寺町は旧参道を無電柱化も含めて整備し、参道入口に新たな観光案内所も設置した。

「永平寺 親禅の宿 柏樹關」は宿坊と旅館の中間、つまり永平寺と一般社会とをつなぐ場所、という三輪和尚(写真右)。坐禅や永平寺での朝のお勤めなどを体験することで禅とつながり、また滞在して門前を楽しんでもらうことで禅の里ともつながってほしいと願う。現在の門前は、団体旅行時代の名残で店舗が個性に欠ける(左)。そのあたりまで踏み込んで再構築を考えていく予定

大本山永平寺
禅の里事業推進室
TEL: 0776-63-3102

事例

永平寺 親禅の宿 柏樹關(はくじゅかん)

古くから尼僧衆が法要などで本山に拝登する際の滞在所となってきた柏樹庵を一新し、その客殿という位置づけで誕生。伝統美の継承、禅の空間の創造、地産地消といったテーマを反映し、禅への入口となるだけでなく、参道の賑わい創出の起点となる。

〒910-1228 福井県吉田郡永平寺町志比 6-1
TEL: 0776-63-1188(9:00～20:00)
https://www.hakujukan-eiheiji.jp

「私たちはお客様を永平寺へとつなぐ案内人です」という志賀敏男総支配人。志賀氏をはじめ、施設では永平寺にて参籠・坐禅研修・100問テストを経て認定される「禅コンシェルジュ」がサービスを担当する

永平寺大庫院を思わせる木造建築のエントランスホールでは、本山から移設した魚鼓が迎えてくれる。客室(写真右下)を含め、内部の空間は日本人の美意識を論じた文豪・谷崎潤一郎の「陰影礼讃」の考え方のもと、自然光とのバランスを考えながら照明が計画された

宿泊者は、永平寺での朝のお勤めと夕食前の坐禅体験ができる。宿の 1階には「開也の間」があり、禅コンシェルジュの指導のもと、ここでも坐禅体験が可能。写経も受け付けているほか、さまざまな禅イベントも実施予定

永平寺監修による食事は、禅のこころを感じられる精進料理のほか、地域の旬を活かし、福井県の豊かな海の幸などが盛り込まれたものもある。食事は 1階の食事処で提供される

文化としての永平寺を未来へつなぐために

ここへ至るまでの道筋では、何度も協議が重ねられた。「大切にしたのは、宗教を文化と捉えた時に後世につなぐべきものは何なのかを考えることでした」というのは、禅の里事業推進室の三輪俊明事務室長。永平寺はもちろん、福井県も永平寺町も、永平寺がある志比谷(しひだに)全体を「禅の里」と捉えた。そのうえで永平寺は禅文化を伝え、新たな形で広めていくひとつの場所として滞在所を誕生させ、そこへ多くの人に訪れてもらうため福井県と永平寺町がそれぞれできることを担当したのが今回。

プロジェクトはまだ始まったばかり。「柏樹關が誕生した門前をどう活性化していくか、そこに向けて動いています」と三輪和尚。永平寺町は永平寺口駅から永平寺まで、かつて鉄道が走っていた廃線跡を「永平寺参(まい)ろーど」と名付けて整備し、永平寺と禅を目的に多くの人が訪れることのできる施策を検討中。その一環として、永平寺口から参拝者を自動運転車で運ぶ実証実験もスタートした。また福井県は、禅に興味を持ち、体験する人が増えるように事業を推進したいと抱負を語る。次に目指しているのは、門前に人の流れを新たに生み出すこと。例えば自動運転車で訪れた人が今回整備した参道を歩いて永平寺に参拝し、帰りは門前町を楽しめるように、新たな施設の建設やプログラムの立案などが考えられる。「古くて最先端の場所。そんな門前にしていきたい」と三輪和尚が語るように、寺院と行政との先駆的な共同事業が、新たな門前の姿を生み出していく。

永平寺町が参道改修に際して設けた観光案内所には、AIが自動で観光案内をしてくれる仕組みも導入。訪日外国人が禅の里をスムーズに体験できるよう、多言語にも対応している

永平寺に現存する 1600年代の古地図に基づき、福井県が永平寺川の修景を担当。コンクリートで覆われていた護岸を、かつてのような石組みにした。宿の前に、永平寺の澄んだ空気が川を伝って届く

テラハク
レポート

次へつなぐため
宿坊を開設。
さらなるアイデアも

住職自らが動き 寺を新たな観光拠点に

臨済宗妙心寺派
定光山大泰寺
〒649-5148
和歌山県東牟婁郡
那智勝浦町大字下和田775
TEL：0735-57-0234

寺を実験台として町の観光を育てていく

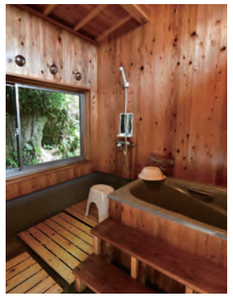
熊野古道が走る和歌山県南部は、一帯が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に指定され、訪日客が増えている。しかし多くの人は那智勝浦町北部にある那智の滝へ向かい、同じ町内の南側、古道沿いに立つ大泰寺周辺は、静かなままだ。隣町の海蔵寺で育った西山十海（とみ）副住職は平成28（2016）年に大泰寺の住職に着任、その状況を変えたいと自ら動き始めた。

「お寺に賑わいを、というよりも、私は町のために寺を活かしたい。現状は観光を育てることが急務で、そのために宿坊を始めたのです」

西山住職が一番の課題だと感じたのは、町を訪問する人の滞在時間の短さ。旅行者は那智の滝と紀伊勝浦駅周辺を観たら、町外へ移動してしまう。そこで南側の大泰寺がもうひとつの拠点となれば、南北を巡り滞在時間が増えるはず。そう考え、今年7月に宿坊を開設した。

大阪と和歌山を結ぶ阪和自動車道が延伸し、10年後には寺の近くにインターチェンジができる。それまでには寺を観光拠点にしたい。西山住職による自坊の活用は、スピーディーに、かつ多彩に動いている。

宿坊は一日一組限定、寝室（写真右下）を含め計5部屋が利用できる。自炊できるキッチン（写真左）は調理器具や食器が揃っており、食事スペースも広い



本堂裏手に宿泊者用の玄関がある。力強い梁がむき出しの個性的な空間。土間にレンタサイクルが用意され、短時間なら無料で利用できる。建物の裏には独立した風呂がある（写真左）

利用していない離れがあり、こちらも改装し、一人用としてまもなく提供される予定

敷地奥に広大なスペースがあり（写真上）、かつて鶏舎だった建物を改装して禅堂を設けた（写真中）。宿泊者はここで坐禅体験ができる。禅堂の奥に見えるのが旧保育所。建物周辺の空き地ではキャンプも受け入れている。薬師堂の諸仏はクラウドファンディングを活用して修復した（写真下）

「私は地元のライオンズクラブにも所属し、糖尿病の予防に力を入れています。当寺のご本尊は薬師如来、また周辺はお茶の産地でもあり、お茶は血糖値を下げる効果があるとも言われています。それらを活用した新たな名所づくりも考えています」。

寺の奥にある旧保育所には現在、お茶づくりをする若者が移住して活動中。構想が現実味を帯びてきた。次は空き家対策で民泊事業を、と考えた矢先、西山住職はあることに気付く。「事業を立ち上げても、人材が不足しているのです」。

自ら起業し、その体験を若い世代に教えていく

西山住職は観光拠点化に向けた計画を進めるために、自ら起業し、将来に向けて人材を育てることにした。「若者が働ける場所を創るだけでなく、私が経験した起業を彼らに教えることもできます。また、私はいずれ自坊へ戻る身。会社が宿坊などの事業運営を担えれば、次の住職は寺の活動に専念できますから」。

活発な動きは現在、町の人にも影響を与え始めている。宿坊利用者向けにツアーを企画したいと地元のガイドから申し出があり、日本舞踊の先生は宿泊者向けレッスンを提案。町役場に地域の人が相談に行けば、西山住職を紹介されることも増えた。寺に人を集めるのではなく、寺が動くことで地域を元気に。それが町の未来につながると信じて。

西山十海住職は中学校の元英語教師。子供と接する中で、地域の未来を考えるようになった。これからの子供には起業家教育が不可欠、その思いもあり、自身が起業することを決意した

JTB

感動のそばに、いつも。

人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。

大本山永平寺の門前には土産物店が並ぶが、どこも似た商品構成のため、立ち寄る人が少なくなっている。「永平寺門前の再構築プロジェクト」(24頁)が、時代に合わせた門前町の在り方を探る

寺社Now

Vol.28

編集後記

参道＆門前町の動きに注目したい。奈良県斑鳩町では、条例改正によって世界遺産・法隆寺の参道に門前宿が誕生し(9頁)、福井県永平寺町では、永平寺門前再構築プロジェクトの一環である宿泊施設が開業した(24頁)。地域と共に。新連載「参道をゆく」が全国を巡る。 (W)

特集はYouTubeと坊主バーの2本。寺社との関係は薄いと感じそうだが、取材を通して見えてきたのは、皆さんの活動の根底に「寺社と一般の人との距離を縮めたい」という思いがあることだった。方法はほかにもあるだろう。来訪者の声に耳を傾け、行動することが、未来を創る。 (H)

無料送付の継続希望

「寺社Now」無料送付の継続をご希望の場合、[寺社名・氏名・住所・電話番号]をご記入のうえ、下記FAXまたはメールアドレス宛にお送りください。ご意見・ご感想もお待ちしております。

バックナンバーが
WEBでご覧いただけます

jisya-now.com

または 寺社NOW 検索

お問合せ

一般社団法人
全国寺社観光協会 本部事務局

TEL：06-6360-9838　FAX：06-6360-9848
e-mail：info@jisya-kk.jp

次号は
2020年1月発行の
予定です。

監修
一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人
一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力
株式会社 glass

発行所
一般社団法人全国寺社観光協会事務局
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 11F
Tel : 06-6360-9838　Fax : 06-6360-9848

寺社 Now
第28号　令和元年11月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。発行人の許諾なしに複写(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載することは違法となります。

寺社Now Vol.28

【監修】一般社団法人 全日本社寺観光連盟 【発行】一般社団法人 全国寺社観光協会 （事務局）〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号 AXIS 南森町ビル11F Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

挑戦の数だけ、保険がある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a ***Good Company***

東京海上日動

JAPAN

TOKIO MARINE NICHIDO

JOCゴールドパートナー（損害保険）